



### 【主な用途】

汚染土壌対策、廃棄物適正処理など

### 【主成分】

鉄系・アルカリ金属系化合物複合体

### 【使用方法】

対象物に所定量TKS105を均一に添加・混合

### 【対象元素】

As、Se、B(Se<sup>6+</sup>に有効)

### 【性状】

粉末状

### 【溶出抑制効果検証試験】

- ①As汚染河川土にTKS105を所定量添加し均一に混合する。
- ②1晩養生後、2mmのメッシュを用いて篩い分けを行う。
- ③篩い分けされた処理土を試料とする。
- ④試料に対し環境省告示第46号溶出試験、酸・アルカリ添加溶出試験を行う。
- ⑤溶出試験により得られた溶出液のAs濃度を測定する。

Table1 測定結果

	添加率 [wt%]	通常溶出試験 [mg/L]	酸添加溶出試験 [mg/L]	アルカリ添加溶出試験 [mg/L]
ブランク	-	0.019	0.027	0.054
TKS105処理土	1.0	0.006	0.007	0.009
	2.0	0.002	0.002	0.005
	3.0	0.001	0.001	0.003
	4.0	<0.001	<0.001	0.001
	5.0	<0.001	<0.001	0.001

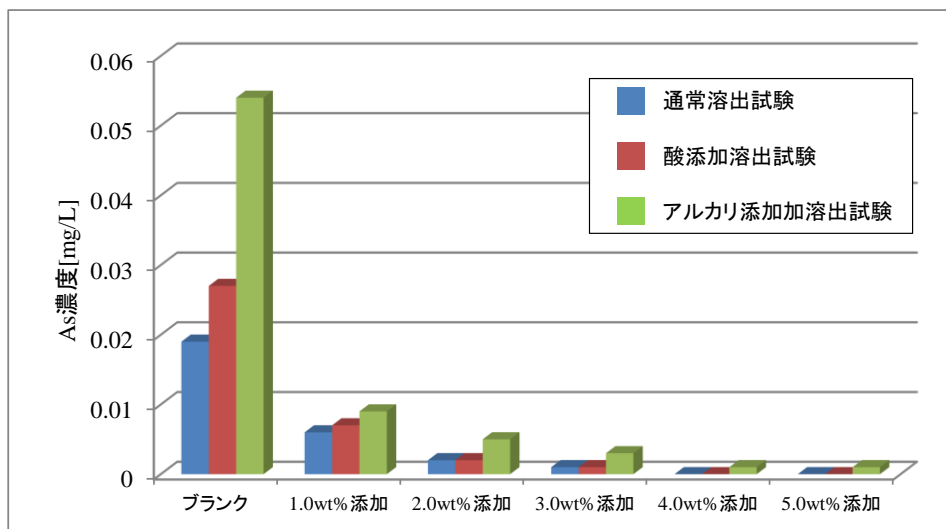


Fig.1 溶出濃度比較

※As溶出濃度環境基準値=0.01mg/L

**【バッチ式Se吸着試験】**

- ①Se含有水にTKS105を所定量添加し攪拌する。
- ②24時間振とう後、0.45 μmメンブレンフィルターで濾過を行う。
- ④得られた濾液のSe濃度を測定する。

Table2 測定結果

添加率 [w/v%]	反応時間 [h]	Se [mg/L]	pH
0	-	0.126	9.73
0.1	24	0.069	6.01
0.25	24	0.018	5.71
0.5	24	0.002	5.60
1.0	24	<0.001	5.55
2.5	24	<0.001	5.36
5.0	24	<0.001	4.62

**・TKS105使用方法**

TKS105を所定添加率で汚染土壤に添加して下さい。

添加後、バックホーや自走式土質改良機などを用いて均一に混合して下さい。

養生期間は特に必要としませんので、混合が完了した時点で、溶出抑制効果は発動しています。

その後、埋戻しまたは盛土などを形成し、処置が完了となります。

**・使用上の留意点**

添加率の目安としては土壤重量に対し1.0～3.0wt%とお考え下さい。

施工機械に関しては腐食性はありませんので特殊性を有さない汎用機械で対応可能です。

処理対象の汚染土壤の性質によって効果の変動する可能性があります。ただし、土壤pH=3～10の範囲であれば特に問題なく使用可能です。

※これら項目は事前ラボ試験、試験施工等を行った上で決定される必要があります。